

平成27年度第2回山形県図書館協議会次第

日時：平成28年3月16日（水）14:00～

場所：「遊学館」 2階 学習室

1 開 会

2 主催者あいさつ

教育庁文化財・生涯学習課生涯学習振興室長
県立図書館長

3 議 事

(1) 山形県立図書館平成28年度運営方針について

(2) 山形県立図書館活性化基本計画(案)について

(3) その他

4 その他

5 閉 会

平成27年度第2回山形県図書館協議会出席者名簿

《委員》

(敬称略)

氏名	役職	備考
加藤 美穂子	一般社団法人子どもの読書サポートアシード代表理事	
佐藤 晶子	元月刊「SPOON」編集長	
新藤 透	山形県立米沢女子短期大学准教授	
鈴木 雅史	山形新聞社論説委員	
西村 仁美	山形県学校図書館連絡協議会副会長 (山形市立第九中学校長)	(欠席)
沼野 慈	特定非営利活動法人NPOもがみ理事長	委員長
松田 道雄	東北芸術工科大学教授	

《主催者・事務局》

氏名	所属・職名
鈴木 和仁	教育庁文化財・生涯学習課生涯学習振興室長
青柳 晴雄	同 室長補佐
大場 幹生	同 生涯学習施設主査
太田 圭亮	同 主事
板垣 裕治	県立図書館長
山田 茂雄	同 副館長(兼)総務課長
安達 均	同 経営主幹(兼)経営課長
高橋 啓二	同 企画主幹(兼)企画課長
佐藤 美智子	同 総務課総務主査
今田 広美	同 経営課調査相談専門員
早坂 幸子	同 経営課管理主査
塩野 克己	同 企画課運営企画専門員
寒河江 惇	同 企画課資料整備主査
高橋 淳子	同 企画課運営企画主査
渡邊 伸行	同 企画課主査
阿部 早百合	同 企画課主査

平成27年度 県立図書館の利用拡大のための主な取り組み

○カバン等手荷物の持ち込みが可能に (H28.2～)

ICタグ・ゲートの導入・設置により平成28年2月25日からカバン等手荷物の持ち込みを可能とした。

○飲料利用可能スペースの拡大 (H28.2～)

平成27年2月に1階 新聞・雑誌コーナーをふた付き飲料利用可としたのに引き続き、平成28年2月25日から1階 ラウンジ、2階 赤ちゃん絵本コーナーとミニラウンジ(新設)でも飲料利用を可能とした。(1か所→4か所)

○図書館ボランティアの導入 (H27.8～)

平成27年6月に県立図書館で活動する図書館ボランティアを募集し、現在18名が登録、8月から書架整理等を手伝ってもらうとともに、平成28年2月に蔵書点検の手伝いを実施したほか、将来的には、企画展示等の手伝いも考えられる。

○学校図書館との連携

平成27年8月県高教研図書館部会村山支部学校司書研修会を、また、平成27年11月に同支部図書委員研修会をそれぞれ初めて県立図書館で開催、館内の見学とポップ作り講習会(11月)を開催し、県立図書館への理解を深めることができた。

○オンラインサービスの拡充 (H27.9～)

平成27年9月から国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用を開始し、これにより国立国会図書館が収集・保存している貴重な画像・音声などのデジタル化資料の利用が可能となった。

○雑誌スポンサー制度 (雑誌受入・広告掲載)(H26.4～)

企業と図書館の相互PR効果及び資料費確保のため、平成27年度も前年度と同様、5社6誌と契約した。

○貴重資料の調査とデジタル化 (H27.4～)

所蔵する郷土資料の和装本について、他館にない資料を中心に約200冊を専門家に依頼して内容を調査し、貴重資料としてデジタル化するもの132冊を選定。このうち、27年度中に約20冊をデジタル撮影した。

また、とくに貴重な、最上義光関係、上杉景勝関係、戊辰戦争関係等の資料については12月に図書館において記者発表を行い、その一部を特別展示した。

○生涯学習文化財団イベント連携「錦絵 山形県新築之図」特別展示 (H27.11)

文翔館、遊学館、洗心庵、教育資料館合同企画「三島が歩いた道～歴史文化ゾーンを巡る～」の中で実施する、「錦絵山形県新築之図を読み解く」の講演会に合わせて、錦絵を縣人文庫内で11月10日～21日に特別展示した。

○県立図書館活性化基本計画の策定

教育庁において、県立図書館活性化検討委員会を設置し、県立図書館活性化基本計画の案について取りまとめた。(資料別途)

○企画展示等の状況

≪実施回数≫

(展示回数)	平成25年度	平成26年度	平成27年度 (2月末現在)
期間限定展示	26回	33回	36回
常設展示のテーマ入替	34回	65回	51回
計	60回	98回	87回

≪平成27年度実施した主な企画≫

◇新たな取組み

・「山形県図書館大賞」の実施 (県内市町村図書館(室)との協働・連携企画)

秋の夜長をしみじみと味わって読みたい大人の小説を県立図書館と県内35市町村図書館(室)職員が投票し36作品を「大賞」として県立図書館と県内22市町村図書館(室)で展示した。(県立図書館は10月27日～12月6日に実施)

・「山形の詩・朗読の夕べ」の開催 (閉館後の時間を利用した初の企画)

企画展示「吉野弘と山形の詩人たち」(5月19日～6月20日)に合わせて、6月14日(日)閉館後の19:10～山形県詩人会の協力を得て朗読会を実施、40人の参加者が県内詩人の朗読と解説を味わった。

・「木村迪夫の詩を語るつどい」(10/11)

山形国際ドキュメンタリー映画祭2015において上山市の詩人・木村迪夫氏を取り上げた映画「無音の叫び声」が上映されるのに合わせて、同映画祭期間中の10月11日に遊学館第一研修室で開催した。監督・原村政樹氏をはじめ、県内外から42名が参加した。

・「山形県立図書館クリスマス・フェスタ」の開催 (複数の企画を同時実施)

12月19日(土)に、「クリスマス・フェスタ」として、遊学館エントランスで一箱古本市(一箱古本市実行委員会の主催)と手作り楽器によるライブショーを、館内で地下探検ツアーと覆面本の貸出・クリスマスツリー設置などを実施し、通常の約3倍となる1,452人が入館した。

◇県組織・事業連携展示

- ・砂防・災害対策課連携展示「自然災害を知る」(5/29～6/20)
- ・スポーツ保健課連携展示「『食』をみつめる」(9/1～9/27)
- ・山形教育の日関連展示「山形の先生からのおくりもの」(10/31～12/2)
- ・村山保健所連携「自殺対策強化月間連携展示」(3/1～3/27)

◇遊学館イベント連携展示

- ・「小説家(ライター)になろう講座連携展示」(4月～3月)
12回、16名の小説家の作品を展示(予定)

◇地域連携企画

- ・花小路ドリンクテリング連携展示「居酒屋と酒と肴を楽しむ」(4/15～5/27)
- ・山形国際ドキュメンタリー映画祭2015関連展示(9/29～10/17)(一部再掲)

◇メディア連携展示

- ・山形新聞・連載記事「やまがた名詩散歩」関連展示「吉野弘と山形の詩人たち」(5/19～6/20) (再掲)
- ・NHK・ドラマ「かぶき者慶次」(前田慶次)関連展示 (4/21～6/14)
- ・NHK・イベント「親子で楽しく絵本を作ろう」(ドラマ「私の青おに」関連イベント)における展示 (4/25)

◇出張展示

- ・「子育て応援団すこやか2015」出張展示(山形ビッグウイング) (6/27)
- ・県立博物館「読育推進連携講座」(読み聞かせ会)出張展示 (7/29)
- ・小国町「おぐに開発センター図書室」出張展示 (10/24)

◇体験型イベント

- ・「図書館のぼうけん」と題して、館内にキーワードを隠し、それを探すことで図書館への理解を深めることを目的に実施、親子10組が参加した。(5/30、6/6)

◇おすすめ本の展示

- ・図書館職員が、毎月交代でおすすめする本を展示(7月～3月)

山形県立図書館 平成28年度運営方針(案)

1 運営方針

「県立図書館の将来のあり方について」（平成27年3月策定。以下「あり方」という。）に掲げる基本理念『県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点』を目指し、「県立図書館活性化基本計画」（平成28年3月策定）も踏まえながら、次の3つの基本目標を掲げて各種施策を展開する。

- (1) 県内図書館の中核的役割の発揮（「あり方」基本目標1）
- (2) 県民ニーズ実現のための積極的支援（同基本目標2）
- (3) 県民本位の利用しやすい図書館づくり（同基本目標3）

2 主な取組み

(1) 県立図書館を大きく変える新たな取組み

① 県立図書館の大規模改修に伴う基本設計及び実施設計の実施

教育庁文化財・生涯学習課が実施する県立図書館の大規模改修に伴う基本設計及び実施設計の作業に積極的に参画し、「県民が集い・学ぶ本のまち」づくりを進める。

② 図書館情報システムの更新の実施

図書館サービスを支える図書館情報システムを再構築し、新たなサービスの追加やシステムの安定的な運用を確保し、利用者に対する利便性の向上を図る。

(2) 県内図書館の中核的役割の発揮

① 資料整備の推進

県内公立図書館・図書室（以下、「県内公立図書館」という。）が整備しない専門性の高い資料についても必要性に応じてこれを整備し、県民の知的ニーズや情報ニーズに応える。

② 相互貸出、インターネット予約及び特別貸出の推進

県内公立図書館との相互貸出やインターネット予約について県民に周知するとともに、県内公立図書館や学校図書館等への一括特別貸出を促進し、県民の誰もが県立図書館の資料を利用できる環境づくりを進める。

③ 県内公立図書館の機能向上の支援

レファレンス等サービスの実施、資料整備、その他図書館運営に係る県内公立図書館からの要請に応じて、情報提供や助言を行い、そのサービス機能の向上を支援する。

④ 県内公立図書館との連携事業の推進

県内の図書館活動の広報や読書推進に係る事業について県内公立図書館と連携して実施する。

⑤ 県内公立図書館職員の研修支援

県内公立図書館職員を対象とした施設の運営及び危機管理、図書館機能の充実等に資する研修を実施し、県内公立図書館職員の資質の向上を図る。

⑥ 学校図書館との連携の推進

県立図書館による高等学校図書館の活動支援及びに高校生の県立図書館利用促進に向けて学校図書館司書等との意見交換を継続するとともに、学校図書館司書・図書委員の研修の受入れや共同の取組みを進める。

⑦ 職員の資質の向上及び調査相談（レファレンス）の充実

職員の研修機会の確保に努め、図書館全体としての専門性の向上を図る。
併せて、レファレンスの事例についてホームページ等で紹介するとともに、レファレンスツールの充実を図る。

(3) 県民ニーズ実現のための積極的支援

① 地域の課題解決や地域活性化への支援

医療、福祉・介護、教育、法律問題など県民の日常生活上の課題解決や地域づくり、防災など地域コミュニティの課題解決、さらには地域活性化に資する活動について支援する。

当面、課題解決に資する資料の整備を行うとともに、民間団体及び行政機関の取組みやイベントと連携して関連資料を展示する企画展を開催する。

② 読育の推進

子育て支援機関や教育機関などへの団体貸出を促進するとともに、各団体と連携し、出前図書館、読み聞かせ会その他のアウトリーチ活動を行う。

③ 地域政策課題解決の支援

行政機関等関係機関に地域政策課題解決のための図書館活用を積極的にPRするとともに、電子メールや本の森通信等を通じて、地域政策課題に資する資料の情報を関係機関に提供する。

④ 電子媒体活用の推進

昨年度に引き続き、郷土資料のデジタル化に向けた準備作業を進める

⑤ 積極的な情報発信による認知度の向上

図書館活用をアピールする話題性のある企画を実施するとともに、県立図書館の活動をひろくPRするため、パブリシティの活用及びホームページやフェイスブックによる情報発信を積極的に行う。

また、図書館のイベント、新着図書、施策等に関するお知らせを掲載した「本の森通信」を定期的に発行する。

⑥ ボランティアの受け入れ等、図書館運営への県民参加の推進

昨年度受け入れた18名と合わせて、28年度も、図書館の利用案内、資料整

理、配架などを行うボランティアを募集し、自主的な活動を促進する。
また、雑誌スポンサーの拡大を引き続き図る。

(4) 県民本位の利用しやすい図書館づくり

① 開館日の増加等

年度当初の休館日を1日に短縮するとともに、蔵書点検期間の短縮による開館日の増加についても検討を進める。

また、祝日となる月曜日の開館について、引き続き関係機関と検討を進める。

② 蔵書管理の充実による利便性の向上

昨年度導入したICタグによる蔵書管理システムについては、平成29年2月運用開始予定の新図書館情報システム(貸出・返却)と連携を図り、さらなる利便性の向上に取り組む。

③ インターネット・複写サービスの利便性向上

Wi-Fi環境の導入やカラー複写サービス用機器の整備について、引き続き検討する。

④ 高齢者や乳児同伴者への配慮

昨年度に引き続き、高齢者向けの大活字本や朗読CDの充実を図る。

また、低学年児や乳児の同伴者が気兼ねなく利用できる「子ども用エリア」の整備について、大規模改修のための基本設計・実施設計の作業のなかで検討していく。

⑤ 親しみやすく、利用しやすい雰囲気づくりの推進

親しみやすく、子ども連れでも気兼ねなく利用できる雰囲気づくりについて、大規模改修のための基本設計・実施設計の作業のなかで検討していく。

なお、当面は、手作り感を生かしたポップな掲示やアイデアを活かした企画展示を実施するとともに、昨年度から実施している多様なイベントの実施を通じて親しみやすい県立図書館のイメージを定着させていく。

⑥ にぎわい創出につながる仕掛けの展開

児童・生徒を引き付ける企画展示やイベントを開催するとともに、民間団体と連携した大人向けの企画展示やイベントも開催する。

また、にぎわい創出の仕掛けづくりについて、教育庁文化財・生涯学習課が設置する「活性化推進会議」の協議に積極的に参加していく。

⑦ 図書館情報システムの改善 (前掲)

⑧ 駐車場利用の改善

利用者の滞在時間の拡大のため、県営駐車場の無料利用時間の延長を検討していく。

山形県立図書館活性化基本計画(案)の概要

基本コンセプト

県民が集い・学ぶ

本のまち

新たな本との出会い
「ときめく」
図書館

気軽に相談
「たよれる」
図書館

ICTで幅広い情報と
「つながる」
図書館

人の輪が
「ひろがる」
図書館

具体的方策

1. 大規模改修の実施

- 図書館エリアの拡大（1・2階計 3,390㎡ → 約 5,700㎡）
- 開架エリアの拡大（現在の開架冊数 178,000冊 → 400,000冊の開架可能へ）
- 閲覧席数の拡大（110席 → 200席以上）

<1階>

子どもや若者の利用を想定したエリアを多く配置し、BGMの導入など、気軽に訪れることができる空間とする。

- 子ども用エリア（授乳室） ○ ティーンズエリア ○ 新聞・雑誌エリア ○ デッキエリア
- カフェエリア ○ アクティブラーニングエリア ○ 総合カウンター及びコンシェルジュカウンター

<2階>

静かに読書や学習ができるエリアとし、1階に比べ静寂な空間とする。

- サイレントルーム ○ パソコン席 ○ 吹き抜け周辺カウンター

<その他>

- 利便性のよい駐車場の整備

2. ICT活用の充実

- 郷土資料等のデジタル化と公開
 - 市町村図書館・図書室とのネットワーク構築と連携強化
 - Wi-Fi環境の導入
 - ポータブル型の貸出処理端末機器の導入検討
 - デジタル書籍閲覧システム（web図書館）の導入検討
- ※平成28年2月25日よりICタグ・ゲートの運用開始（開架図書へのICタグ貼付完了）

3. 管理運営の充実

- 図書資料の充実
- 調査相談能力の向上と情報発信
司書の働く場の創出と安定的配置の検討・研修の充実・調査相談サービスのPR等
- 市町村図書館・図書室と学校図書館への支援の充実
- 幅広い県民に利用しやすい開館日・開館時間の設定
- 多様な主体と連携した販わいを創出する仕組みづくり
 - ・ 近隣商店街、大学コンソーシアムやまがた、読み聞かせ・子育て団体等との連携
 - ・ 地元製品の展示・即売、講演会の開催、産直市の開催等
 - ・ 書籍、雑貨等の常設の物販検討

山形県立図書館活性化
基本計画
(案)

平成28年3月
山形県教育委員会

目 次

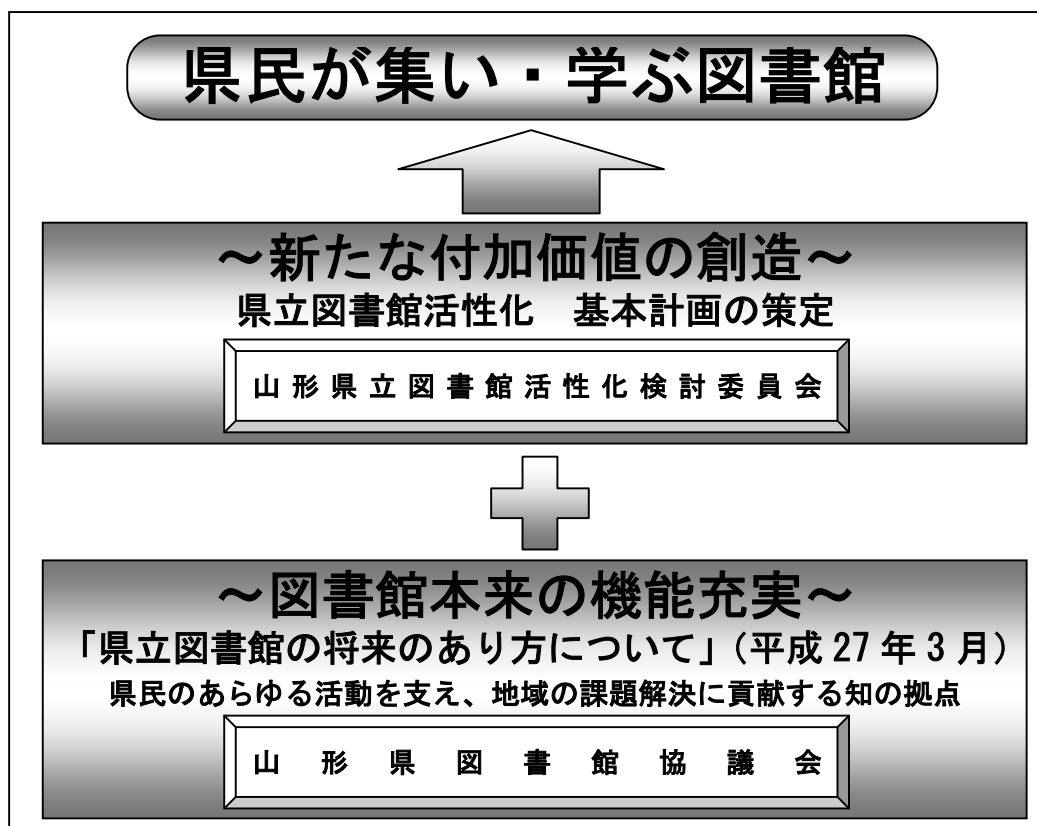
第 1 章 活性化基本計画策定の趣旨・経緯.....	1
第 2 章 調査結果の概要	2
1. 調査の方法.....	2
2. 集計結果等.....	2
第 3 章 基本コンセプト	7
第 4 章 具体的方策.....	9
1. 大規模改修の実施	9
2. ICT 活用の充実	11
3. 管理運営の充実	12
第 5 章 評価・検証.....	16

第1章 活性化基本計画策定の趣旨・経緯

近年の図書館を巡る環境の変化や県立図書館に対する県民の期待を踏まえ、山形県図書館協議会は、平成27年3月に「県立図書館の将来のあり方について」として改善策をまとめ、実施可能なところから図書館本来の機能の充実を図っていくことを求めている。また、「さらなる活性化に向けて」として、図書館のみならず、併設する施設を含めた検討や、周辺の文化施設やNPO・ボランティア等との連携も視野に入れた「賑わい」創出の仕組みづくりなどの議論が必要としている。

これを踏まえ、山形県立図書館のさらなる活性化を図るために、新たな付加価値の創造を目的とする方策の検討組織として「山形県立図書館活性化検討委員会」を設置した。検討委員会では、これまでの図書館の枠にとらわれない視点から検討を行い、「県民のあらゆる活動を支え、地域の課題解決に貢献する知の拠点」という図書館の基本理念のもと、その担うべき役割や機能を維持しつつ、県民本位の利用しやすい図書館づくりを目指し、「県民が集い・学ぶ図書館」を実現するため基本計画を策定する。

図1-1 山形県立図書館活性化検討委員会の位置付け



第2章 調査結果の概要

◆ 1. 調査の方法

県立図書館に関するニーズ把握のため、インターネットを利用したアンケート調査と聴き取り調査を実施した。

インターネットを利用したアンケート調査では、調査会社の県内モニター1,450人に対して実施した。聴き取り調査等は、山形市内の高校生（24人）、大学生・大学院生（30人）、読み聞かせグループ（12人）、子育て中の母親グループ（27人）に対して実施した。また、経済界については、事前に山形市内の51人にアンケート調査を実施した後、5人から聴き取り調査を行った。

◆ 2. 集計結果等

(1) インターネット利用によるアンケート調査

【利用の有無と来館頻度】

- ・「来館利用有」は44.3%で、「週1回以上来館する」は4.4%であった。

【利用目的】

- ・「本を読む・借りる」が利用目的の上位を占め、その中でも「趣味・娯楽の本」が36.4%、「生活に関する本」が32.4%、「知的好奇心・探究心を満たす本」が30.8%、「仕事や職業に関する本」が25.2%であった。また、「本に囲まれた空間でゆっくり過ごす」は11.5%であった。

【非来館理由】

- ・「遠い」が46.0%、「市町村の図書館を利用」が28.7%であり、村山地域以外の県民にとっては遠い存在となっている。また、「行く時間がない」が24.0%となった。

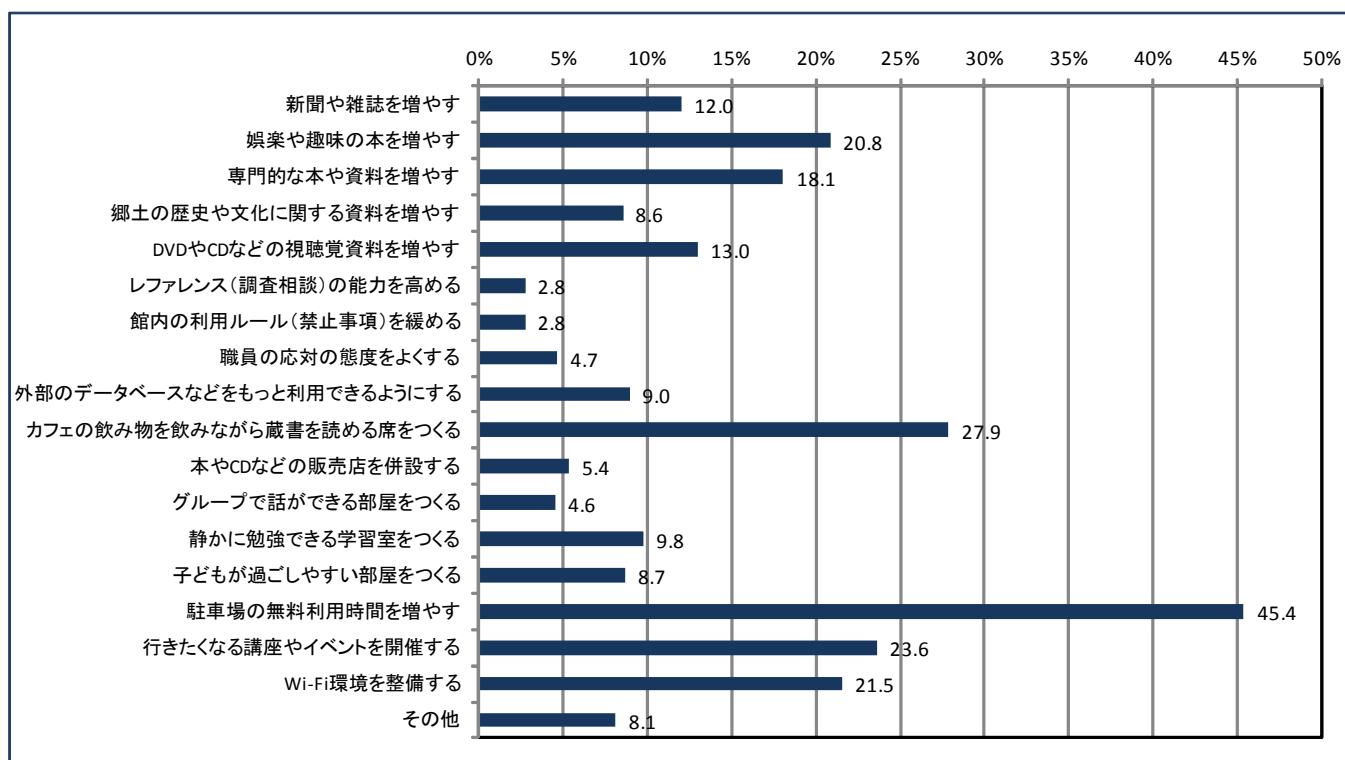
【県立図書館のイメージ】

- ・「県民にとって大切な施設」が31.4%、「本や雑誌の蔵書が充実」が26.3%、「県の歴史や文化資料を収集・保存している」が25.9%、「静かな環境で勉強や調べ物ができる」が23.9%など、調査・研究の施設として評価されている。一方で、「お堅い雰囲気気で気軽に相談できない」が16.4%となった。

【改善すべきところ・今後力を入れてほしい分野】

- ・ 駐車場に関して「駐車場の無料利用時間の拡大：45.4%」と約半数が要望している。
- ・ 増やしてほしい資料に関しては、「娯楽や趣味の本：20.8%」「専門的な本や資料：18.1%」「DVDやCD等の視聴覚資料：13.0%」「新聞や雑誌：12.0%」「郷土の歴史や文化に関する資料：8.6%」の順であり、比較的幅広い資料の収集を望んでいる。
- ・ その他のサービスに関しては、「カフェの飲み物を飲みながら閲覧できる席：27.9%」「行きたくなる講座・イベント開催：23.6%」「Wi-Fi環境整備：21.5%」「静かに勉強できる学習室9.8%」「外部のデータベースなどをもっと利用しやすく：9.0%」「子どもが過ごしやすい部屋：8.7%」の順となっている。このうち、カフェや講座・イベントに関しては、年代を問わず要望が強い。

図2-1 改善すべきところ・今後力を入れてほしい分野



資料：インターネット調査結果より（複数回答）

(2) 聴き取り調査

① 高校生より

- ・空間や利用環境に関しては、「さらなる勉強空間としての快適性向上（一人用だけでなく、グループや友達と教え合いながら勉強できる空間）」「飲み物が飲める空間の拡張」「館内への荷物持ち込み制限の改善」の意見が多い。
- ・資料に関しては「話題の本や読書感想文指定図書をもとめて展示」の要望がある。
- ・開館時間に関しては、「学校利用ができなくなる時刻（教室は 19 時まで、図書室は 17 時まで利用可）以降に開館していれば利用する」との意見がある。

② 大学生等より

- ・「飲み物可や、持ち込んだものを飲食できる空間」「休憩やおしゃべりができる空間」「カフェなど軽食も可能なスペース」への要望が強い。
- ・「Wi-Fi 環境や利用可能な電源の確保」「ロッカー利用の改善」等の意見も見られた。

③ 経済界より

【駐車場について】

- ・「資料返却利用に限定した駐車場の整備」「返却用ドライブスルーの設置」「県営駐車場からの道をわかりやすく」「隣接市有地の活用」等の提案が出されている。

【会議・催事・交流目的での利用のためには】

- ・「駐車場利用条件の改善要望」が最も多い。
- ・「研修やミーティングができるスペース」「小中高校生がテーマをもって調べられるカリキュラム導入」「講座やイベントの数や内容の見直し」「カフェ機能の拡大や蔵書を読めるカフェ」「Wi-Fi 環境の整備」「県民にとっての憩いの場所のイメージづくり」「開館時間の延長により仕事・学校が終わった後の利用誘導」等の意見が見られた。
- ・地元商店街からは、「図書館とのコラボレーションのための委員会立ち上げ」との意見もあった。

【遊学館全体について】

- ・「遊学館全体の機能が不鮮明」「入口が広いのもっと有効活用すべき」「施設全体が暗いのもっと明るく」「遊学館に図書館があることを知らない

人が多いので、名前を変える」「利用者が憩いを求めてくるようなイベントの開催」等の意見・提案が出されている。

【図書館について】

○児童コーナー

- ・「子ども連れで気軽に行ける雰囲気、うるさいならコーナーを囲む工夫が必要」「不登校児が人とふれあう場所として活かす」「子育て中の親のための空間の併設」「近くの小学校の校外学習の利用」等の提案が出されている。

○青少年コーナー

- ・「若者がおしゃべりできる空間の整備」「村山地区の高校生参加による資料を使った学習企画の開催」「若者が好む CD・DVD の充実」等の提案が出されている。

○サービス全般

- ・「コミュニティの場として、コンビニ・レストラン等の設置」「山形再発見の催事の際の図書館利用による学習機会を設ける」「シニア世代は2階に上がらないので1階の蔵書を増やす」「仕掛けるイベント及びその告知を拡大」等の提案が出されている。
- ・「七日町商店街との協働事業（例えば読書週間に合わせた事業など）の可能性はあるが、市立図書館との差別化は重要」との意見も出されている。
- ・その他として「開館時間の延長」「郷土資料の充実」「民間を見習った運営の見直し」等の意見も出されている。

【県立図書館のイメージ】

- ・「県の歴史・文化を大切にしている」「生涯学習や情操教育に大切な施設」「IT時代だからこそ、人が集うコミュニティとしての存在感がある」「静かに勉強・調べ物ができる、調べたい時には必ず関連資料がある、蔵書が多い」「良い環境で静か」とのプラスイメージを多く持たれている。
- ・逆に、数は少ないが「気軽に利用できない堅い雰囲気」「主に学生が勉強に利用する場所」「IT時代には縁遠い施設になった」「遊学館との名称により図書館のイメージがない、存在感が薄い」とマイナスイメージも持たれている。

④ 読み聞かせグループより

- ・「図書館に来たのか、生涯学習センターに来たのか分からず図書館には入りにくい」「児童コーナーの場所が分かりにくい」「書架が高くて手が届かない」等の指摘があった。

- ・要望としては、「児童書架をもっと低くしてほしい」「子どもたちがゆっくと読書ができるスペースが欲しい」「子どもが声を出すので大人の空間とのすみ分け」「子ども用のトイレ、授乳スペース、おむつ交換スペースが欲しい」「展示会・講座等の企画拡大や読み聞かせの定例化」「駐車場の改善」「絵本は絵作者順の配架がわかりやすい」が出されている。
- ・県立図書館として、「県内図書館のモデルとなる児童サービスの充実」や「県内図書館との関わりの強化や講座の充実」への期待もある。

⑤ 子育て中の母親グループより

- ・「話ができたり、読み聞かせができるスペースや子どもが靴を脱いで本を読めるスペースが欲しい」「使いやすい授乳スペースやおむつ交換スペースが欲しい」「駐車場の改善」「親子で利用できるカフェ」等環境面での要望がある。
- ・サービス面では「定期的なイベントの開催」「子育てマスターなどの相談ができる職員がいるとよい」との意見も出された。

第3章 基本コンセプト

県立図書館の「知の拠点」としての役割を充実させるとともに、県民が様々なサービスを受けられ、幅広い世代の人々が活動・交流する場を活性化のイメージとし、「県民が集い・学ぶ 本のまち」を基本コンセプトとした。

この基本コンセプトの実現に向けて、「ときめく」「たよれる」「つながる」「ひろがる」の4つを柱に、具体的な活性化策を展開していくこととした。

基本コンセプト

県民が集い・学ぶ 本のまち

ときめく
図書館

多様な資料の充実を図るとともに、開架書架を拡充して、本に囲まれ、本との新たな出会いを演出する「ときめく図書館」の実現を図る。

たよれる
図書館

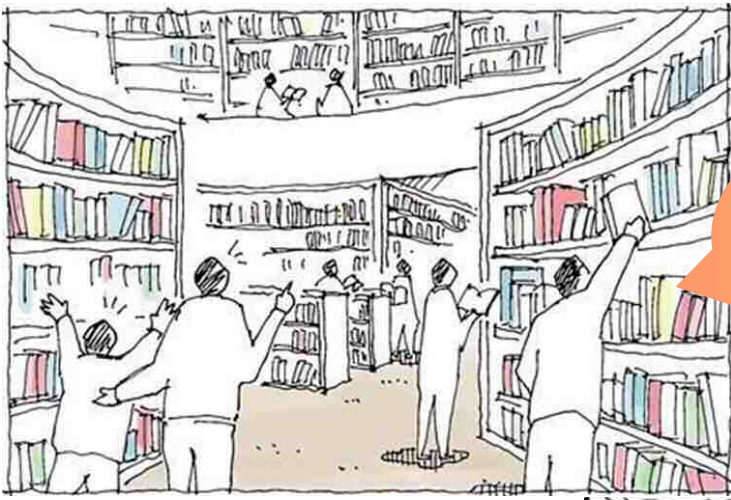
調査相談能力を強化し、そのサービスの認知度を高めるとともに、コンシェルジュ機能をも付加するなど利用者からも市町村図書館等からも「たよれる図書館」の実現を図る。

つながる
図書館

IC タグシステムと一体化した新図書館情報システムの導入を推進するとともに、ICTの活用等により多くの県民と「つながる図書館」の実現を図る。

ひろがる
図書館

幅広い世代に優しい空間づくりを実施するとともに、多様な主体と連携を進め「ひろがる図書館」の実現を図る。

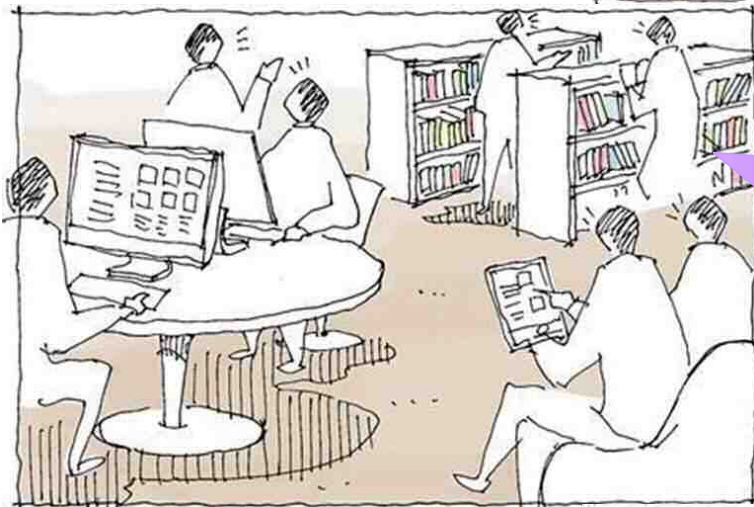
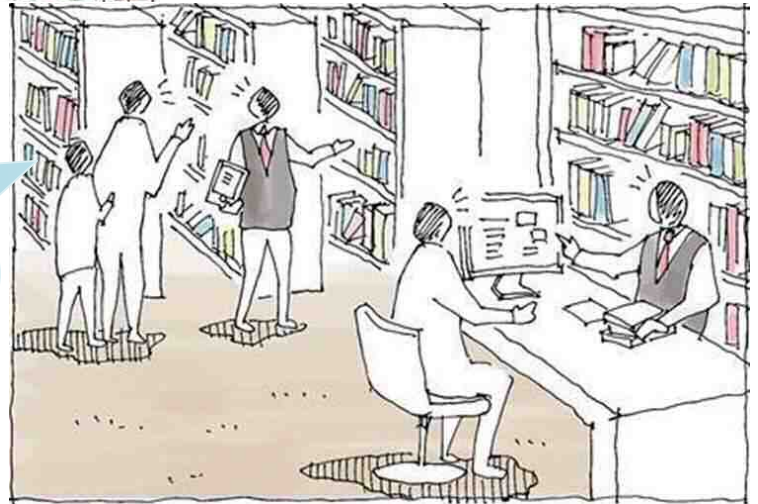


新たな本との出会い！

「ときめく」図書館

気軽に相談！

「たよれる」図書館

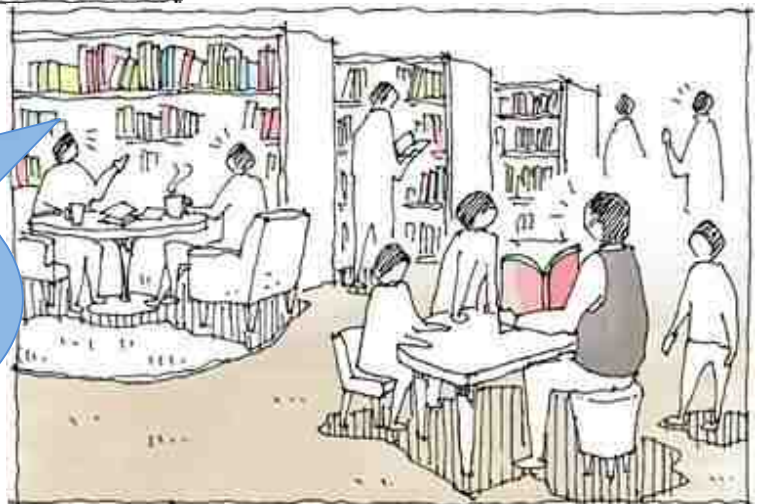


ICTで幅広い情報と

「つながる」図書館

赤ちゃんから高齢者まで
人の輪が

「ひろがる」図書館



第4章 具体的方策

◆ 1. 大規模改修の実施

「本との新たな出会い」や豊かな「学び」を提供するためには、多様な資料の充実を図るとともに、その資料が開架されていることが大切である。また、幅広い世代の人々に対応したそれぞれの空間づくりも重要であり、それらを可能にするため施設の改修を実施する。

(1) エリア及び閲覧席数の拡大

① 図書館エリアの拡大

- ・ 県立図書館のエリアを現 3,390 m²から遊学館 1・2 階の約 5,700 m²に拡大する。但し、2 階の研修室等は除く。

② 開架エリアの拡大

- ・ 現在の開架冊数は約 178,000 冊であるが、400,000 冊の開架が可能となるよう拡大する。
- ・ 書架の配置は、利用者が本に囲まれ、新たな本との出会いが生まれるよう工夫をするとともに、利便性にも配慮するものとする。

③ 閲覧席数の拡大

- ・ カウンター席、グループ席、ソファ、スツール等、多様なスタイルの閲覧席を、現 110 席から 200 席以上に拡大する。

(2) 充実を図る施設等

① 1 階

子どもや若者の利用を想定したエリアを多く配置し、従来の「静かな」図書館のイメージから、BGM の導入など、気軽に訪れることができる空間づくりを目指す。

○ 総合受付及び展示・催物コーナー

- ・ 遊学館入口付近に総合受付を配置する。また、IC タグシステムの導入に伴いセルフ貸出機を設置するとともに、予約本貸出棚の設置を検討する。さらに周辺に展示・催物コーナーを配置する。

○ 子ども用エリア

- ・ お話の部屋や託児スペース・プレイスペース・子ども用トイレ・授乳室等から構成する子ども用エリアを配置する。整備に当たっては子どもや親子などが会話可能な空間とする。

- ティーンズエリア
 - ・中高生を対象とするグループでの会話が可能なティーンズコーナーを配置する。
- 新聞・雑誌エリア
 - ・中庭の景観を楽しみながら長時間くつろげるエリアとする。
- デッキエリア
 - ・中庭に面して、子供用・大人用それぞれのデッキスペースを用意する。
- カフェエリア
 - ・全ての世代が「飲み物を楽しみながら読書や学習ができるスペース」を要望していることを踏まえ、カフェエリアの充実を図る。
- 対面朗読室
 - ・目の不自由な方や高齢の方を対象とした、対面で読み聞かせが可能な個室を配置する。
- アクティブラーニングエリア
 - ・グループで作業やディスカッションができる空間を配置する。また、活動の様子が外から見えるよう、ガラスパーテーション等で仕切られた空間とする。
- コンシェルジュカウンター
 - ・図書館のインフォメーション機能はもとより、周辺施設や地域の情報についての多様な相談に対応するカウンターを設置する。

② 2階

静かに読書や学習ができるエリアとし、一般閲覧席の他、サイレントルーム、パソコン席などを設け、静寂な空間とする。

- サイレントルーム
 - ・静寂な環境で読書や学習ができる空間とし、透明なパーテーション等で仕切られた部屋を設置する。
- 吹き抜け周辺カウンター
 - ・吹き抜け周辺に、パソコンやタブレット端末が利用できる電源のあるカウンター席を設ける。

(3) 利便性のよい駐車場の整備

- ・駐車場の利便性向上が利用者の最も強い要望であることに配慮し、県営駐車場の無料利用時間の拡大や近隣における駐車場の確保を検討する。また、返却だけの利用者に対応したドライブスルー型返却スペースの整備の可能性を検討する。

◆ 2. ICT 活用の充実

県民に等しくサービスを提供するという県立図書館の使命を果たすためには、ICT を活用した資料の提供と、県内外図書館とのネットワーク化が重要である。

また、郷土資料等の収集や保存は、県立図書館の大切な役割であり、そのデジタル化や公開に ICT の充実は不可欠である。

(1) 郷土資料等のデジタル化と公開

- ・県内の地域学習・文化活動の拡大のため、県立図書館が所蔵する行政資料・古文書・絵図等地域資料・歴史資料のデジタル化を進める。デジタル化に当たっては、詳細な目録データ（メタデータ）を作成する。
- ・デジタル化した資料については、来館者への閲覧サービスを行うとともに、ホームページ等で一般に公開する。

(2) 市町村図書館・図書室とのネットワーク構築と連携強化

- ・県立図書館及び市町村図書館・図書室全体の図書館サービス向上のため、すでに導入している横断検索システムの充実に加え、調査相談情報やイベント・講座等の催し物情報を共有化できるシステムの構築を検討するとともに、情報提供に関する連携を強化する。

(3) Wi-Fi 環境の導入

- ・インターネット利用環境の充実に向けて Wi-Fi 環境の整備を図る。

(4) ポータブル型の貸出処理端末機器の導入検討

- ・出張図書館や館外のイベントにおいて、その場で貸出処理が可能となるような端末機器の導入を検討していく。

(5) デジタル書籍閲覧システム（web 図書館）の導入検討

- ・デジタル書籍閲覧システムは、平成 19 年に導入され徐々に全国的に普及しているが、県立図書館が購入対象とする書籍の多くが電子化されるという段階には至っていないため、その導入について状況をみながら検討していく。

◆ 3. 管理運営の充実

図書館活性化には、施設の改修、ICT 活用の充実など、ハード面の整備・充実とともに、組織体制の充実を図り、市町村図書館等を含む利用者へのサービス向上というソフト面の充実が重要である。

(1) 資料の充実

- ・幅広い分野の資料の充実を図るとともに、高齢者向けの大活字本や児童書の充実を図る。
- ・山形県の歴史・文化を保存・伝承していく役割を果たすため、郷土資料等の充実を図り、企画展示や関連イベント等で広く情報発信していく。
- ・選書については、県立図書館としてより専門的な資料収集を図るため、市町村図書館・図書室との連携を密にして進めていく。

(2) 調査相談能力の向上と情報発信

① 調査相談能力の向上

- 司書の安定的配置方策の検討（司書の働く場の創出）
 - ・調査相談サービスの充実のためには、知識と経験を有する図書館司書の継続的配置が不可欠であることから、司書資格を有する者の長期雇用が可能となるよう検討する。
- 研修の充実
 - ・調査相談能力向上のため、国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース」等を活用した研修や、専門家による研修を実施するとともに、館外の研修会への積極的な参加を促進する。
- 調査相談資料の充実
 - ・専門的な事項を含む様々な幅広い調査相談内容に対応できるように、調査相談事例の検討を行いながら調査相談資料を充実させる。
- 専門機関紹介機能の強化
 - ・情報収集力及び関係機関との連携を強化し、利用者に専門機関を紹介できる体制を整える。

② 利用促進のための情報発信

- ・ホームページやフェイスブック等を利用して、調査相談サービスの有用性を PR するとともに、調査相談事例の紹介等を積極的に行い、図書館資料を活用した調べ方ガイド（パスファインダー等）の充実を図る。

(3) 市町村図書館・図書室と学校図書館への支援の充実

① 市町村図書館・図書室との連携と支援強化

- 相互貸借及び団体貸出（一括特別貸出）の拡充と資料配送体制の見直し等
 - ・県内市町村図書館・図書室を対象とする相互貸借及び団体貸出が、「図書館の図書館」たる県立図書館の重要な役割の一つであることから、蔵書の充実を積極的に行うとともに、県内の利用者に速やかに資料が届くよう配送体制の見直しを検討し、相互貸借及び団体貸出の増加を図る。
- 市町村図書館・図書室職員を対象とする組織の強化と研修の充実
 - ・市町村図書館・図書室職員のスキルアップのため、職員を対象として、図書館サービスに関する多様な研修を充実する。
 - ・市町村図書館・図書室の司書の連携強化を図られるよう、山形県図書館協会を通じて研修体制を検討する。

② 学校図書館へのサポート機能の強化

- 学校図書館等の支援と情報交換機会の拡大
 - ・高等学校図書館の運営に関する相談窓口として、学校司書及び司書教諭向け研修や相互に情報交換を行う機会を設けるとともに、学校図書館等への貸出サービスを拡充強化し、生徒等の読書活動を支援する。また、市町村図書館・図書室を通じて、小中学校の学校司書及び司書教諭に対する研修及び蔵書が少ない小中学校に対する団体貸出等を支援していく。
- 授業関連図書等の提供
 - ・10代の若者向けの新着本を紹介する情報誌（ゲートブック）を学校図書館に配付するとともに、学校司書や教員と連携して、学校の授業に関連する「関連図書」「同一作家図書」等の貸出について検討する。

(4) 幅広い県民に利用しやすい開館日・開館時間の設定

- ・図書館利用者は様々な目的を持ち、それぞれのライフスタイルに合わせて図書館を利用することから、利便性向上のため開館日を拡大する。また、開館時間についても、閉館時刻の延長について検討していく。

(5) 多様な主体と連携した賑わいを創出する仕組みづくり

- ・生涯学習センター及び男女共同参画センターと連携・協働し、県民ニーズに対応した多彩な企画を積極的に開催するとともに、企画に参加した個人や関係団体の図書館利用を促進する。
- ・大学コンソーシアムやまがたや大学等との連携・協働により、講座やゼミ、サークル活動等での利用促進を図る。

- ・読み聞かせや子育て団体の日常的な利用を促進するとともに、多様なグループから図書館の企画運営に主体的に参画してもらう仕組みを構築する。
- ・近隣の商店街や施設等で行われるイベントと連携した企画を実施する。
- ・県内企業と連携し、地元産品の展示・即売、講演会の開催、産直市の開催等、図書館本来の機能にとどまらない多様な賑わい創出の仕掛けづくりを検討していく。
- ・書籍や雑貨等の常設の物販について、あり方を検討していく。

— 具体的方策の体系 —

基本コンセプト

県民が集い・学ぶ

本のまち

ときめく
図書館

- ・大規模改修の実施
- ・開架エリアの拡大
- ・資料の充実
- ・ブック&カフェスペースの設置
- ・デッキエリアの設置
- ・サイレントルームの設置
- ・ティーンズエリアの設置
- ・ポータブル型の貸出処理端末の導入検討
- ・図書館エリアの拡大
- ・閲覧席数の拡大
- ・子ども用エリアの充実
- ・Wi-Fi環境の導入

たよれる
図書館

- ・資料の充実（再掲）
- ・司書の安定的配置
- ・情報発信の強化
- ・相互貸借の充実
- ・市町村図書館等への支援強化
- ・学校図書館への支援強化
- ・コンシェルジュカウンターの設置
- ・司書の働く場の創出
- ・研修の充実
- ・司書の連携強化
- ・市町村図書館等との連携

つながる
図書館

- ・郷土資料等のデジタル化と公開
- ・市町村図書館等とのネットワーク強化
- ・Wi-Fi環境の導入（再掲）
- ・ポータブル型の貸出処理端末の導入検討（再掲）
- ・デジタル書籍閲覧システムの導入検討

ひろがる
図書館

- ・生涯学習センター及び男女共同参画センターとの連携企画
- ・読み聞かせ団体、子育て団体等との連携
- ・近隣の商店街や施設、企業との連携
- ・開館日の拡大と開館時間の延長検討
- ・アクティブラーニングエリアの設置
- ・産直市等の開催検討
- ・常設物販のあり方検討
- ・利便性のよい駐車場の整備
- ・子ども用エリアの充実（再掲）
- ・デッキエリアの設置（再掲）
- ・大学等との連携

第5章 評価・検証

○継続的な満足度調査の実施

- ・接遇・蔵書・広報・展示・各種催し物等の図書館サービスと、使いやすさ・居心地の良さ等空間・環境に関する利用者満足度調査を継続的に実施し、サービス等の改善に活用する。また、市町村図書館・図書室に対しても、支援サービスに関する調査を継続的に実施し、支援内容の見直しや強化に活かす。

○県民全体の図書館利用の総量を用いた評価の検討

- ・県立図書館は、来館者に対する直接サービスに加え、県内市町村図書館・図書室への支援を通して間接的なサービスを行うことにより、広く県民全体へのサービスを提供する役割を有している。したがって、図書館の直接利用に加え、県内市町村図書館・図書室利用を含めた県全体の総量を把握して指標とすることが考えられることから、その把握方策を検討する。

<現状>

図5-1 県立図書館の総合的満足度



資料：平成26年度実施 山形県立図書館の利用に関する県民意向調査結果（来館者アンケート）
 回答数：275人／性別：男性65%・女性35%

表5-1 山形県内図書館の利用状況（平成26年度）

	来館者数（人）	個人貸出冊数（冊）	人口当たり個人貸出冊数 （冊／100人）	（参考）人口（推計） H26.4.1（人）
県立図書館	192,779	212,759	18.8	1,133,960
県内図書館（22館）	2,097,050	3,759,568	362.4	1,037,505
県内公民館図書室（13室）	—	94,441	97.9	96,455
総計	2,289,829	4,066,768	358.6	1,133,960

※来館者については、集計できない県内図書館が3館ある（資料：山形県立図書館）

山形県立図書館活性化検討委員会

<委員名簿>

(敬称略)

- 委員長 逸見 良昭 (株式会社尚美堂 代表取締役社長)
- 委員 山崎 亮 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科長)
- 〃 尾形 恵子 (有限会社ティップス 取締役社長)
- 〃 新藤 透 (山形県立米沢女子短期大学国語国文学科准教授)
- 〃 大沼 洋美 (studio こぐま 代表)

<外部アドバイザー>

(敬称略)

- 糸賀 雅児 (慶應義塾大学文学部教授)
- 岡崎 エミ (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授)
- 醍醐 孝典 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授)
- 鈴木 秀明 (「小説家 (ライター) になろう講座」事務局長)